

パネルディスカッション

中途障害者の復職と就労支援

蜂須賀研二

産業医科大学リハビリテーション医学講座

リハビリテーション（リハ）医療の基本的な治療目標に自宅復帰、社会復帰、職場復帰があげられる。その中でも職場復帰は患者が就業年齢にあれば重要な課題であるが、これまで医療の立場から十分な対応がなされているとはいえない。職場復帰の要因を、1) 本人、2) 職場、3) 企業、4) 社会、5) 医療に分けて考えることにする。本人の要因としては、疾病の種類とその重症度、機能障害や活動制限、職場復帰への意欲、特技・資格、性格などが重要であり、これらの多くは病院で評価や訓練を行うことができる。職場の要因としては、本人の職務内容、作業場の環境、障害者に対する職場の上司や同僚の理解、障害者のために配置転換や職務変更をするゆとりが職場にあるか、などの問題がある。企業の要因としては、経営方針として障害者を受け入れる基本理念があるのか、また障害者を受け入れるだけの経営的ゆとりがあるのか

も考慮すべきである。社会的要因として、社会情勢、経済状況、社会通念なども影響を与えている。医療の要因として、医療制度に基づく入院期間や治療に関する締め付け、医療として取り扱う領域などの問題がある。職場復帰には、上記の如く多くの要因が複雑に関与しており、医師の「職場復帰可能」という診断書だけでは物事は円滑に進展しない。

今回、これらの前提のもとで、脳卒中、外傷性脳損傷、脊髄損傷、切断と異なる4疾患を取り上げ、それぞれ専門の先生方に障害の特徴、職場復帰、就労支援に関して報告して頂くことにした。パネルディスカッションを通じて、中途障害者の職場復帰と就労支援の現状を分析して、リハ医療として何を行い、職業リハや産業医・企業担当者に何を願うのかを明らかにして、中途障害者の職場復帰を推進して行きたい。